

【概要】 菊池温泉街リブランディング基本構想

I 基本的な考え方

1 策定趣旨

- 菊池温泉は日本名湯百選に選出されるなど全国的に評価されているが、宿泊者数は減少傾向。菊池温泉街存続の危機にある。
- 旅館等が抱える構造的課題等の解決による温泉街の再生及び魅力向上を図るため、地域一体となって取り組めるよう基本構想を策定する。

2 取組期間

令和6年度（2024年度） ～ 令和15年度（2033年度）までの10年間

II 現状と課題

1 観光を取り巻く社会情勢や環境の変化

| | |
|-------------|--|
| 旅行ニーズの変化 | アドベンチャーツーリズム、ウェルネスツーリズム、サスティナブルツーリズムの旅行ニーズが拡大 |
| 宿泊施設ニーズの変化 | 旅行ニーズ > 団体型 < 個人型 客室数・客室稼働率 > 旅館 < ホテル |
| インバウンド需要の回復 | 水際対策緩和後、R5.10に初めてコロナ前同月比数値超 阿蘇くまもと空港の国際線就航・再開 |

2 菊池温泉街における現状と課題

| | | | |
|----|----------------------|-----------------------|--------------------------------|
| 現状 | 宿泊者数 約14.7万人(H28) | 旅館組合員数 25件(S40年設立) | 経営者の高齢化 小規模旅館経営者 平均年齢65歳 |
| | 約4.3万人(R4) | 8件(R5) | |

本質的な課題認識

- 危機意識の低さによる課題解決の先送り
- 菊池温泉街全体の意欲の不足

背景要因

- 観光振興の中核を担う旅館・ホテルが負のサイクルに陥り、**人材不足**や**後継者不在**の要因も重なり、**経営努力による抜本的な立て直しを図れない**
- 観光産業の需要が外的要因に左右されやすいが故に陥りやすい**行政依存体質**
- 旅館ホテル、飲食店等の**連携意識の低下**
- 行政、経済団体が議論喚起すべき**役割を十分に果たせなかった**

取り組むべき課題

- ◆ ブランドイメージの確立・向上
- ◆ 景観まちづくりの推進
- ◆ 旅館・ホテル、飲食店の魅力化
- ◆ 交通アクセスの改善

III 菊池温泉街のビジョン ※詳細は次項

目指す将来像 「菊池溪谷の恵みと白龍が宿る温泉街」

IV 推進体制

1 役割分担

- 本質的な課題認識と背景要因を踏まえ、各関係者が、自らの役割を認識し、互いに連携、協働しながら責任を持って取り組むことが必要
- 宿泊事業者、飲食事業者、観光関連団体、商工会等、行政（菊池市）に期待される役割

2 PDCAに沿った進行管理

- PDCAサイクルの考え方にに基づき、適切な進行管理を実施
- 全体の取組状況等の検証作業を「菊池温泉街リブランディング検討委員会」において定期的実施



Ⅲ 菊池温泉街のビジョン

1 目指す将来像

将来の ありたい姿

『菊池渓谷の恵みと白龍が宿る温泉街』 〈将来のありたい姿に込めたメッセージ〉

菊池らしさとは、阿蘇山麓に位置する菊池渓谷の豊かな水資源によって育まれてきた「自然」「食」「歴史文化」といった「菊池の暮らしそのもの」。菊池温泉街には、菊池でしか味わえない旅の素晴らしさを守り、伝え、発展させていく使命があり、訪れた人が体験できる滞在拠点としての役割を担っている。菊池の魅力を誇りに、持続的に経済発展していくまちを創り上げる。

実現に向けた 5つのスタンス

- ① 「流行」より「オリジナル／ルーツ」
～菊池を育んだ水、自然、歴史文化を大切に～
- ② 「行く旅」より「繋がる旅」
～帰ってきたくなる旅、ヒト・モノ・コトの豊かさが循環する旅～
- ③ 「点」より「面」
～菊池温泉街全体で経済発展していく～
- ④ 「他力／人任せ」より「共創」
～官民連携による持続可能な体制と実行力～
- ⑤ 「過去」を生かした「未来志向」
～地域に愛される、次世代に残したい温泉街～

評価指標

➢ ありたい姿の実現に向けて、定量的評価指標を設定し、適時適切に評価・検証を実施

- ① 菊池温泉街の宿泊者数（うち外国人宿泊者数）148,000人（60,000人）
- ② 市内観光消費額 191.9億円
- ③ 人気温泉地ランキング（九州エリア）ベスト10入り
- ④ 菊池温泉街の推奨度 60%

2 ターゲット像

ターゲット

➢ 将来のありたい姿を実現するため、優先すべきターゲットを設定
福岡・熊本都市圏 × 夫婦・パートナー、家族・親族
台湾 × 夫婦・パートナー、家族・親族



菊池温泉 の楽しみ方

懐かしさと新しさが交差する温泉街

〈キーワード〉

白龍・菊池銘菓「松風」・温泉・食・スナック巡り

3 取組の方針

旅館・ホテルの 経営基盤強化

- 事業承継及び経営コンサルタント支援
- 官民連携による宿泊施設・設備の改修及びマーケティング支援
- 高単価食事プラン等宿泊サービスの高付加価値化及びマーケティング支援
- 地域一体となった旅館・ホテルの運営（清掃業務の効率化等）

食を通じた 温泉街の魅力化

- 旅館・ホテルと飲食店の連携による泊食分離の推進（先進的モデルプランの造成・販売等）
- 空き店舗等への新規飲食店の開業支援（金融機関との連携による伴走支援スキームの構築等）
- 本市農産物を活用した統一メニューの面的展開（ご当地グルメの開発・プロモーション等）

景観まちづくり の推進

- 「新・景観ガイドライン」策定による統一感のある街並み形成
- 歩きたくなる温泉街づくり（夜間ライトアップ、軒先空間を活用したおもてなし等）
- 回遊性向上に向けたナイトタイムコンテンツの実施（イベント等）